

人間ドック・健診センター

健康管理室

【はじめに】

2022年度は、これまでと同様にワクチン接種管理や感染・針刺し事故後のフォロー、職員特定保健指導の強化、安全衛生委員会における労働環境の改善や、職員の長時間労働の把握・フォローに努めた。さらに COVID-19 感染拡大防止のための就業制限職員の健康管理を行うなど、職員の健康管理に力を入れた。

【実績・結果】

1. 感染症予防対策

1) HB・四種感染症ワクチン接種管理

対象者

○ 2022 年度雇入れ健診実施職員で感染症抗体価（B 型肝炎、四種感染症）が基準値以下又は陰性者。

○ 現行職員に対しては、職員健診実施職員のうち、B 型肝炎の抗体価が基準値以下又は陰性者。

・ B 型肝炎接種対象者 90 名に 3 回接種、ブースター接種対象者 18 名に 1 回接種

・ 風疹接種対象者 11 名に接種

・ 麻疹接種対象者 88 名に接種

・ 水痘接種対象者 22 名に接種

・ ムンプス接種対象者 102 名に接種

・ MR 接種対象者 70 名に接種

2) 雇い入れ時 T-SPOT 検査

雇い入れ健康診断時に、全入職者に対し、T-SPOT 検査を実施し、結果が陽性者・判定不可能者・判定保留者に対しては受診勧奨をして、定期的なフォローを行っている。検査の結果、2022 年度雇い入れ健診受診者 185 名のうち陽性 1 名、判定保留 0 名、判定不可 0 名であった。他 184 名は陰性であった。

3) 針刺し等事故の追跡検査

院内感染対策委員会から報告を受けた対象者に対して、規定の追跡検査を実施するよう指導を行っている。2022 年度、感染・針刺し事故報告は 17 件であった。そのうちの 7 件はフォロー対象であった。感染源の内訳は汚染血不明

が 4 件、HCV が 3 件である。対象者は定期的に診察、血液検査を受けており、感染者の報告は 2023 年 4 月現在みられていない。その後の経過は記録保存をしている。

2. 職員健康診断

1) 2022 年度前期職員健診（特定業務従事者健診）

対象者：深夜勤・電離放射線・特定化学物質・有機溶剤取扱業務従事者 601 名

実施期間：7 月 5 日～7 月 19 日

健診受診率 100%（医師：100% 看護職：

100% 事務職：100% コメディカル：100%）

2) 2022 年度後期職員健診

対象者：全職員（協会けんぽ生活習慣病予防健診受診者以外）727 名

実施期間：2 月 7 日～3 月 20 日

健診受診率：100%（医師：100% 看護職：

100% 事務職：100% コメディカル：100% 休職者及び産休・育休者、退職予定者を除く）

3) 2022 年度協会けんぽ生活習慣病予防健診

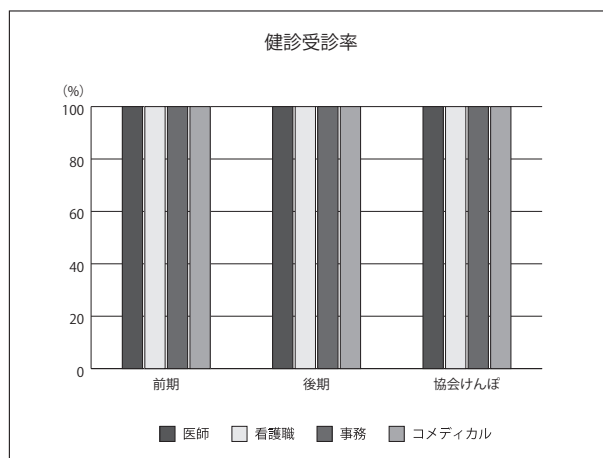
対象者：35 歳以上で希望した職員 565 名

実施期間：11 月 1 日～3 月 15 日

健診受診率：100%（医師：100% 看護職：

100% 事務職：100% コメディカル：

100%）



3. 就業制限職員の健康管理

COVID-19 感染の疑いがあり就業制限が必要と判断された職員 106 名及び COVID-19 陽性者の濃厚接触職員 430 名延べ 536 名に対し、就業制限中の健康管理及び復職前 PCR 検査の対応を行った。

【今後の展望】

今後もワクチン接種及び雇入れ・職員健診後の精密検査の受診勧奨や追跡調査を確実にを行い、職員の健康管理を継続していくとともに、職員健診および協会けんぽ生活習慣病予防健診の確実な受診を推進する。また針刺し事故等の予防対策にも取り組み、事故数の減少を目指す。

引き続き COVID-19 蔓延防止のために施設内の環境整備を徹底し、検温や手指消毒衛生の励行に努めていく。

[文責: 照井佳子]

人間ドック・健診センター

【はじめに】

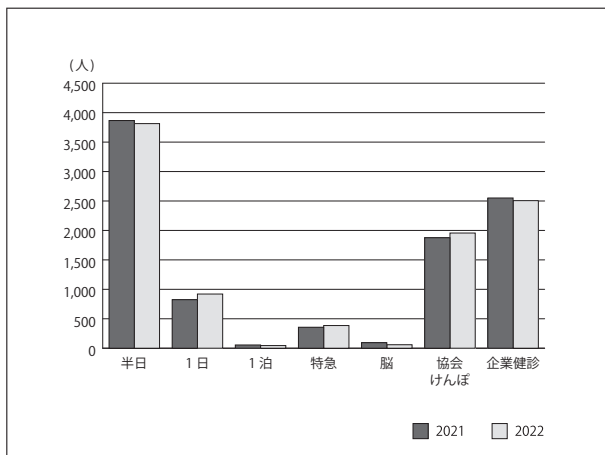
2022年度は新たにロコモ予防運動器検診、睡眠検査、腸内フローラのオプション検査を追加した。QC活動では更衣室のクレームを減らすための対策に取り組み、安心して受診していただけるよう環境を整えるなど人間ドックの質の向上に努めた。

【スタッフ紹介】

センター長	1名
常勤医師	1名
保健師	9名
臨床検査技師	2名
管理栄養士	1名
事務	8名

【利用実績】

2022年度の総受診者数は9,685人



(職員健診は協会けんぽ健診と企業健診に含まれる)

【健診結果集計】

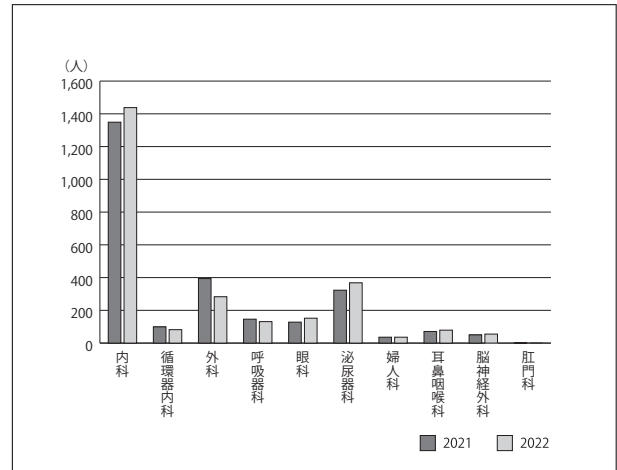
	年度	男性	女性	計
異常所見なし	2021	69	357	426
	2022	61	377	438
軽度異常あり	2021	257	506	763
	2022	262	527	789

※所見別、要経過観察、要医療、要二次検査判定については(別表1)参照。

【二次検査紹介数】

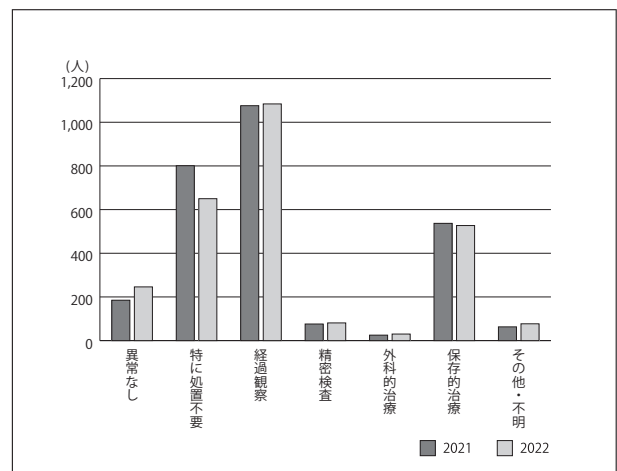
健診の結果、二次検査・精密検査が必要な方には医療機関受診の案内書を発送している。

当院の各専門科への紹介においては、円滑な外来受診ができるように心がけている。



【二次検査結果・方針】

二次検査については、毎月追跡調査を行っている。当院の各専門科、他院からの結果報告の回収は事後指導、精度管理に役立てている。



【悪性腫瘍発見数】

悪性腫瘍疑いのある受診者様に対しては、各検査科と連携をとり、速やかに医療機関を受診できるよう対応している。

疾患	年度	2021	2022
	胃癌		1
食道癌		0	0
肺癌		3	2
腎癌		1	2
大腸癌		2	3
乳癌		3	0
子宮癌・卵巣癌		0	0
前立腺癌		0	4
甲状腺癌		0	0
計		10	13

【特定保健指導数】

2008年度より管理栄養士・保健師による特定保健指導を行っている。

疾患	年度	2021	2022
	動機付け支援		179
積極的支援		108	92
計		287	258

	経過観察						要医療						要精査					
	総数		男		女		総数		男		女		総数		男		女	
年 度	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022
肥 満	1,637	1,682	990	1,003	647	679	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼 吸 器 疾 患	760	780	438	452	322	328	0	0	0	0	0	0	234	197	126	105	108	92
高 血 圧	601	573	386	365	215	208	856	947	623	671	233	276	0	0	0	0	0	0
高 中 性 脂 肪	64	55	56	44	8	11	0	0	0	0	0	0	50	41	25	20	25	21
高 尿 酸	155	189	146	177	9	12	0	0	0	0	0	0	47	63	45	62	2	1
心 電 図 異 常	477	471	271	266	206	205	58	66	42	46	16	20	170	154	115	105	55	49
食 道 疾 患	234	330	150	221	84	109	10	12	7	8	3	4	17	12	15	8	2	4
胃 疾 患	1,086	1,307	595	752	491	555	13	19	8	11	5	8	103	97	64	51	39	46
十 二 指 腸 疾 患	114	140	90	108	24	32	5	3	5	2	0	1	8	3	6	3	2	0
胆 石・胆のうポリープ	1,184	1,236	827	871	357	365	1	2	1	2	0	0	72	63	47	49	25	14
肝 機 能 異 常	2,166	2,347	1,376	1,492	790	855	1	4	1	3	1	1	649	588	529	449	120	139
糖 尿 病	482	580	364	383	118	197	0	0	0	0	0	0	304	356	246	288	58	68
血 液 疾 患	641	707	372	343	269	264	46	48	10	11	36	37	436	396	175	148	261	248
便 潜 血	0	0	0	0	0	0	5	5	4	4	1	1	274	300	168	185	106	115
前 立 腺 疾 患	83	99	83	99	0	0	1	2	1	2	0	0	46	59	46	59	0	0
婦 人 科	131	149	0	0	131	149	4	2	0	0	4	2	42	36	0	0	42	36
乳 房 疾 患	10	7	0	0	10	7	0	1	0	0	0	1	297	255	0	0	297	255
そ の 他 の 疾 患	1,736	1,767	1,005	1,005	731	762	8	11	1	5	7	6	1,797	1,782	1,005	1,034	792	748
総 計(延べ件数)	11,516	12,419	7,149	7,581	4,412	4,738	1,008	1,122	703	765	306	357	4,546	4,402	2,612	2,566	1,934	1,836

(別表 1) 財団法人 日本病院会 基準

[文責: 佐伯正人]

まつなみ訪問看護ステーション まつなみ訪問介護ステーション

「生きるを ともに つくる」

「在宅で安心して暮らせる地域住民のパートナーになる」

「サービスの質の向上を図り、地域住民や関係職種の方から選んでいただけるステーションになる」

を目標に掲げ、全ての年齢層、全ての障がいを対象者として質の高い看護・リハビリテーション・介護サービスの提供をめざして活動をしている。

【人員体制】

・訪問看護ステーション

施設長 1名
(訪問看護、訪問介護兼務)

保健師 3名

看護師 12名

理学療法士 3名

言語聴覚士 2名

(訪問リハビリと兼務)

事務 1名

・訪問介護ステーション

介護福祉士 8名

事務 1名

【概要】

地域のかかりつけ医やケアマネジャー、市町村の健康福祉課や介護保険課などと協力し、地域で生活してみえる方の居室に訪問してその方に必要な医療・介護サービスを、24時間365日対応している。

・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士によるリハビリテーション

・保健師・看護師による医療処置・管理、健康状態の観察、療養支援、介護者支援、退院時の移行支援、入院中の外出泊支援

・介護士による食事介助、入浴等支援、買い物や調理支援、痰吸引、経管栄養注入支援

訪問車を運転して利用者の家から家へ1日中渡り歩いており、当院に帰ってくるのは基本的に自分の昼食時間と訪問が終わった夕方だけ。不在時の電話は手持ちの携帯電話に転送され、出先で対応している。

【取り組み】

1. 利用者の口腔衛生・栄養マネジメント、寝たきり防止対策の強化

①口腔衛生については、OHATシートを用いて全利用者の評価ができた。また、羽島郡在宅医療サポートセンターのホームページ（木曾川トンボねっと）で住民向けに動画配信した。評価後の計画への落とし込みや実践、多職種連携が十分できなかったため、次年度の課題として取り組む。

②栄養マネジメントについては、職員への勉強会を開催し、MNA-SFを用いて65歳以上の全利用者の評価ができた。「低栄養の恐れあり」と出た利用者は、利用者計画書に反映できた。「低栄養利用者の可視化」が次年度の課題。

③寝たきり防止対策については、利用者に指輪っかテストを用いた筋力低下評価をしやすいように利用者宅に置くバイタル表に項目を追加して継続できた。また、羽島郡在宅医療サポートセンターのホームページ（木曾川トンボねっと）で住民向けに動画配信した。次年度は全利用者から対象者を抽出してアプローチしていく。

2. 職員を育成し、サービスの質向上を目指す（感染症対策、口腔衛生、栄養マネジメント、寝たきり防止に重点）

①重点を置いた項目に対する研修を、オンデマンドも活用して充実させた。

②個別手順書を電子化し、訪問先で確認できるようにし、質の向上を図った。現在随時入力中。

③電子カルテを用い、同・他職種間での情報交換を密に行った。

④症例検討会を定期的に行い、多角的にチームで1人の利用者を支えていく方法を学んだ。

⑤ヒヤリハット委員会活動が充実し、ヒヤリハット提出が増えた。次年度は、タイムリーに分析し、早期対応していくことが課題。

3. 看取り利用者へのサービス向上（「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」に基づいたケアの充実）

年間看取り 43 件あり、年間 20 件以上という算定基準を大幅に超え、機能強化型訪問看護加算Ⅰの算定を維持できた。

また、前年度作り上げた ACP シートを用いて利用者への聞き取りを開始できた。次年度は全利用者への聞き取りを目指す。

4. 職員のコスト意識向上と収益確保

OJT 教育の充実、提供するサービスの質向上、マネージメント能力を養う事で訪問件数増加につなが

るよう指導継続してきた。

退院後、介護保険でリハビリ介入となる利用者を「松波総合病院訪問リハビリテーション事業所」から訪問するようにコントロールしたことで、訪問看護から介護保険で介入するリハビリ単価より高い単価を訪問リハビリで算定でき、法人としては増収となった。

また分化したことで、訪問看護では看護体制強化加算Ⅱの維持ができ、まもなくⅠの算定ができる状況に近づいてきた。

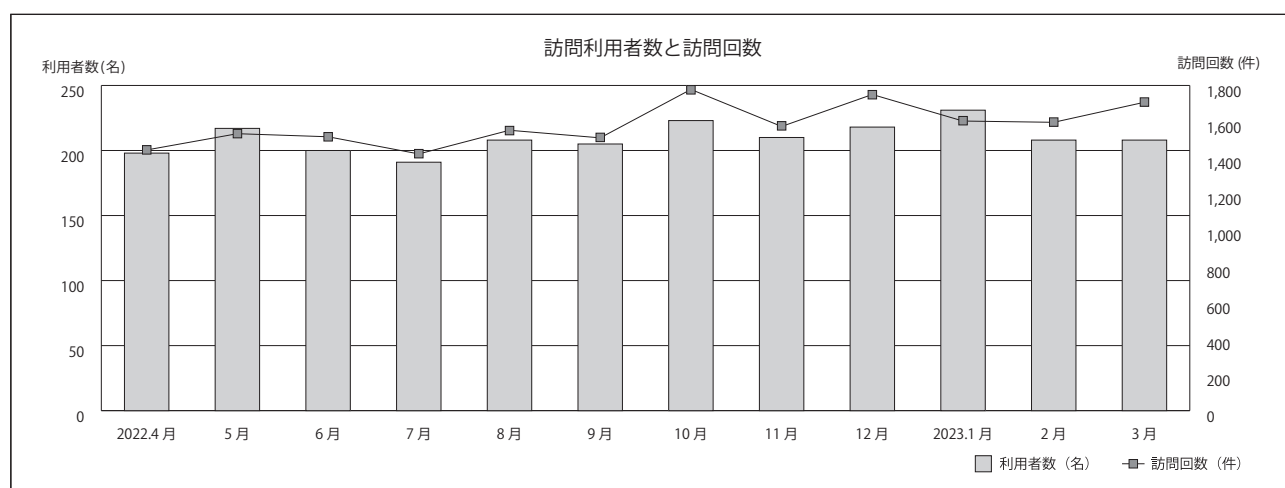
訪問介護に関しては大幅に増収した。「訪問看護師の訪問でなくて良くなった利用者サービスを当ステーションの介護士が担い、看護師は新たな重症者のケアに当たれるようにする。密に連携できて質の高いサービスが提供できる」という設立当初の趣旨通りに運営でき、利用者を獲得できている。

〔文責：早藤麻衣〕

2022 年度 まつなみ訪問看護ステーション

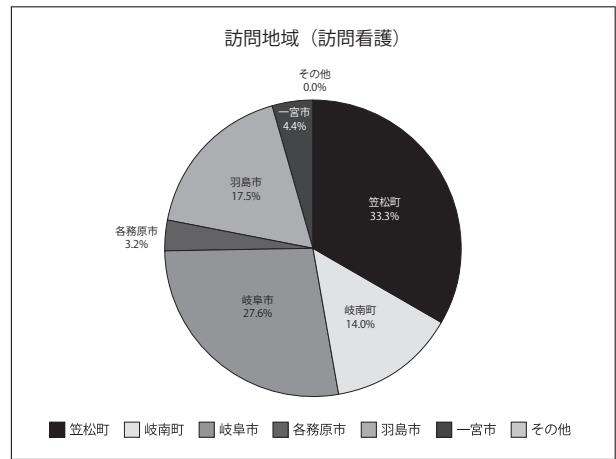
訪問利用者数と訪問回数

	2022.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023.1月	2月	3月
利用者数(名)	198	217	200	191	208	205	223	210	218	231	208	208
訪問回数(件)	1,443	1,533	1,516	1,421	1,552	1,510	1,778	1,573	1,750	1,603	1,596	1,707



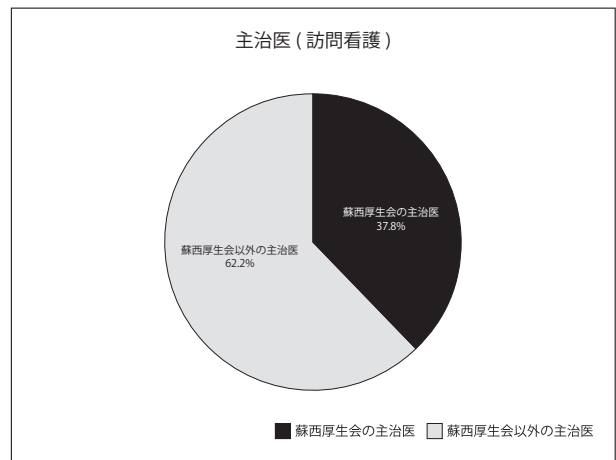
訪問地域（訪問看護）

利用地域	利用者数	割合
笠松町	105	33.3%
岐南町	44	14.0%
岐阜市	87	27.6%
各務原市	10	3.2%
羽島市	55	17.5%
一宮市	14	4.4%
その他	0	0.0%
合計	315	100%



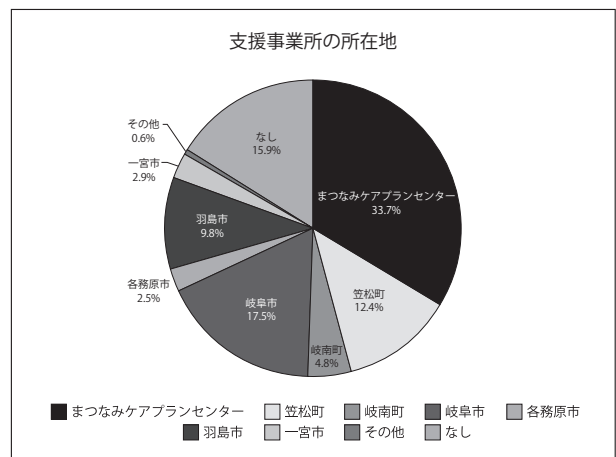
主治医（訪問看護）

主治医	利用者数	割合
蘇西厚生会の主治医	119	37.8%
蘇西厚生会以外の主治医	196	62.2%
合計	315	100%



支援事業所（訪問看護）

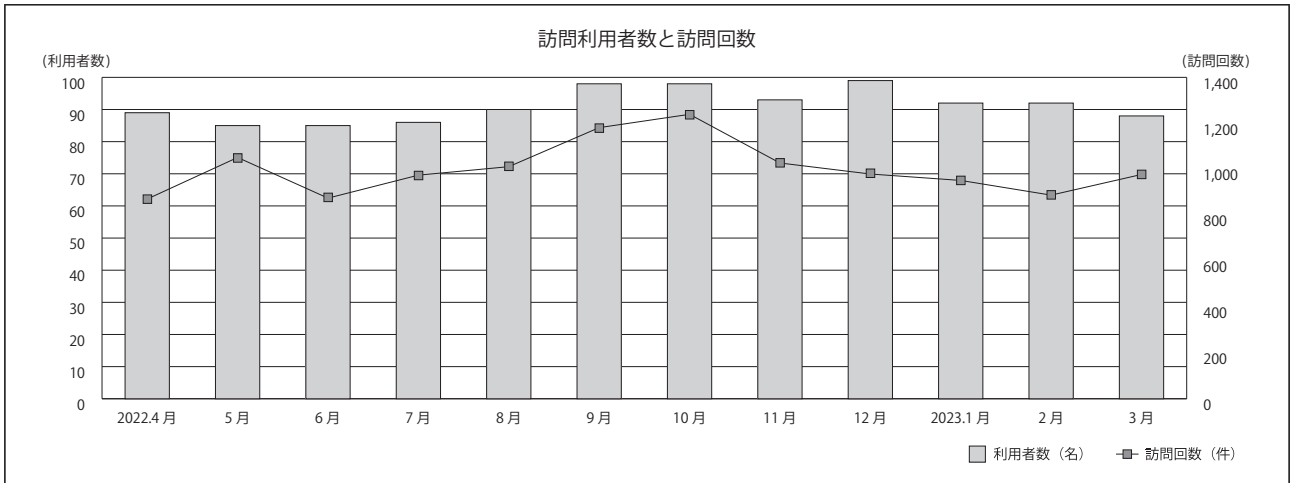
支援事業所の所在地	利用者数	割合
まつなみケアプランセンター	106	33.7%
笠松町	39	12.4%
岐南町	15	4.8%
岐阜市	55	17.5%
各務原市	8	2.5%
羽島市	31	9.8%
一宮市	9	2.9%
その他	2	0.6%
なし	50	15.9%
合計	315	100%



2022年度 まつなみ訪問介護ステーション

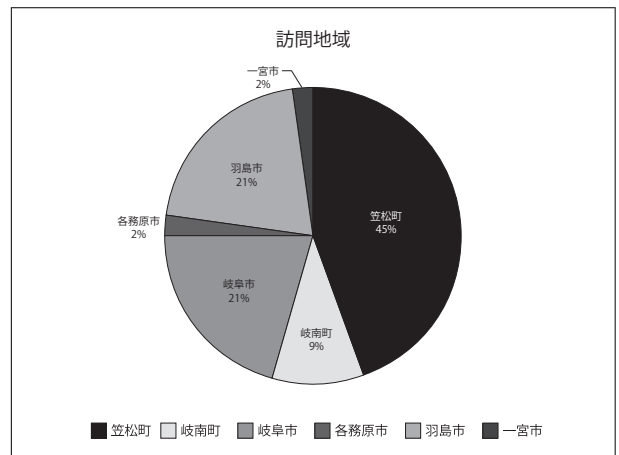
訪問利用者数と訪問回数

	2022.4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023.1月	2月	3月
利用者数(名)	89	85	85	86	90	98	98	93	99	92	92	88
訪問回数(件)	870	1,051	874	974	1,011	1,181	1,239	1,027	979	951	887	977



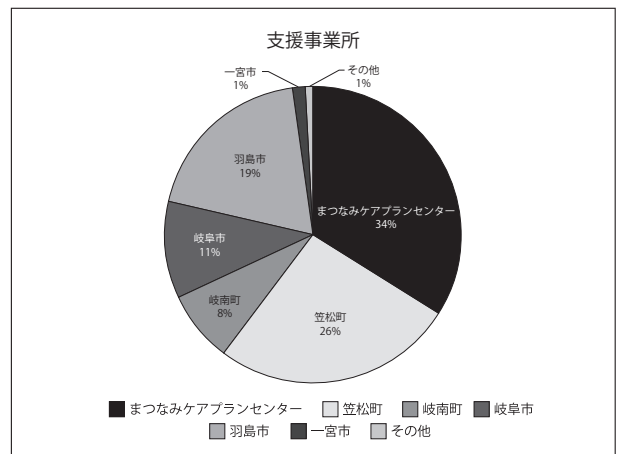
訪問地域 (訪問介護)

利用地域	利用者数	割合
笠松町	63	45%
岐南町	14	9%
岐阜市	29	21%
各務原市	3	2%
羽島市	29	21%
一宮市	3	2%
合計	141	100%



支援事業所 (訪問介護)

支援事業所の所在地	利用者数	割合
まつなみケアプランセンター	48	34%
笠松町	37	26%
岐南町	11	8%
岐阜市	15	11%
羽島市	27	19%
一宮市	2	1%
その他	1	1%
合計	141	100%



松波総合病院訪問リハビリテーション事業所

【人管理体制】

管理者(医師)	1名
医師	1名
理学療法士	7名 (訪問看護ステーションと兼務)
言語聴覚士	2名 (訪問看護ステーションと兼務)
事務	1名

【概要】

訪問リハビリテーションは、住み慣れた地域で安心して日常生活を送れるように、利用者の身体機能の回復や日常生活の自立を目指すとともに、生きがいや役割を持って家庭内や社会に参加できるように支援していくものである。また、漫然とサービスを提供するのではなく、リハビリテーション会議を含めリハビリテーションマネジメントを実践していく中で、リハビリテーションの質の向上に努めている。

訪問地域の割合は、羽島市が31.1%、岐阜市30.3%、笠松町21.8%、岐南町8.4%、各務原市2.5%、一宮市5.9%になっている。

【取り組み】

1. リハビリテーションマネジメントの実践

昨年度に引き続き、リハビリテーションマネジメントを実践し、調査(S)、計画(P)、実行(D)、評価(C)、改善(A)のサイクルを構築し、利用者の心身機能、活動及び参加についてバランスよくアプローチし、職員の育成やサービスの質の向上に努めた。

2. 感染対策の強化

訪問3事業所(訪問看護ステーション、訪問介護ステーション、訪問リハビリテーション事業所)合同の感染対策委員会が中心となり、感染対策について適宜更新し、業務を停止することなく継続することができた。

3. ITの推進(LIFEへの参加、オンライン会議の開催)

LIFE(科学的介護情報システム)へのデータは

メディケア(電子カルテ)から提出することができている。また、医師の診察やリハビリテーション会議も全てオンラインで実施できた。

4. 収益実績

2022年度の収益実績は、¥35,030,490で計画の¥35,842,196を達成できなかったが、前年の¥29,462,650からは増収となった。

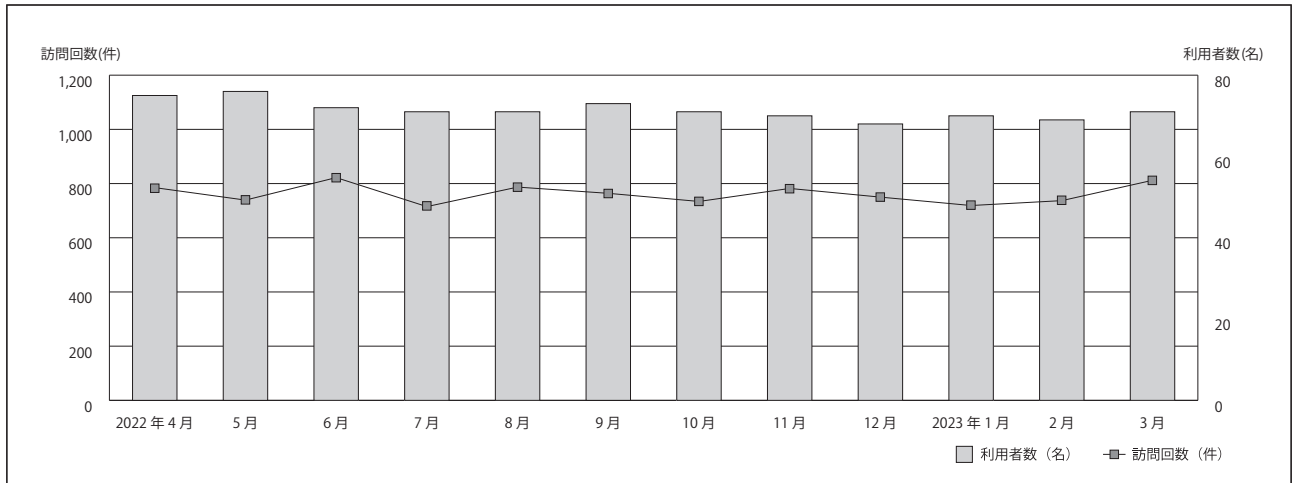
また、訪問リハビリテーションを終了(卒業)できる利用者の実績や要支援利用者の介護度改善が認められ、「移行支援加算」と「事業所評価加算」が算定できた。

[文責:吉村ゆかり]

2022年度 松波総合病院 訪問リハビリテーション事業所

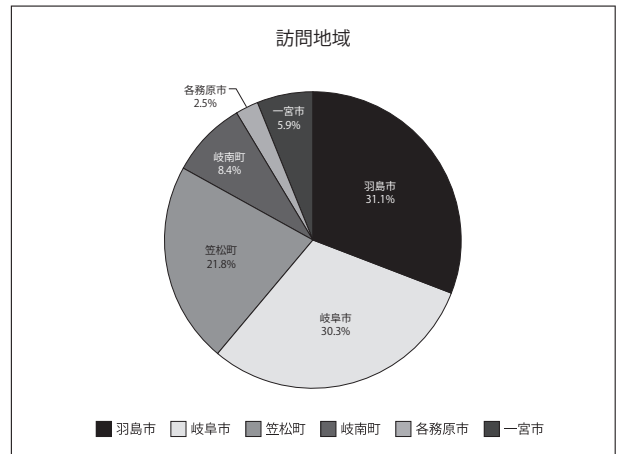
訪問利用者数と訪問回数

	2022年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年1月	2月	3月
利用者数(名)	75	76	72	71	71	73	71	70	68	70	69	71
訪問回数(件)	785	739	822	715	787	764	734	782	750	719	737	812



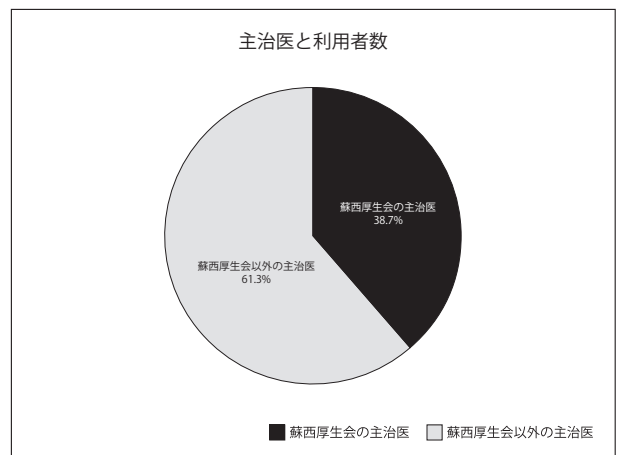
訪問地域 (訪問リハビリ)

利用地域	利用者数	割合
羽島市	37	31.1%
岐阜市	36	30.3%
笠松町	26	21.8%
岐南町	10	8.4%
各務原市	3	2.5%
一宮市	7	5.9%
合計	119	100%



主治医と利用者 (訪問リハビリ)

主治医	利用者数	割合
蘇西厚生会の主治医	46	38.7%
蘇西厚生会以外の主治医	73	61.3%
合計	119	100%



まつなみケアプランセンター

【人員体制】

部長	1名
管理者(主任介護支援専門員)	1名
部員(主任介護支援専門員)	5名
(介護支援専門員)	3名

【居宅介護支援事業所の概要】

所属する介護支援専門員(ケアマネジャー)が、介護保険法の趣旨に従い、介護サービス計画書(利用者、利用者家族の希望される在宅での療養生活が最適となるよう支援する)の作成を主な業務としている。

【取り組み・実績】

当事業所は、主に6市町(笠松町・岐南町・岐阜市・羽島市・各務原市・一宮市)にお住まいの高齢者に対する居宅介護支援事業を展開しており、介護保険サービスはもとより地域の社会資源を有効に活用して利用者や家族の支援をしている。

2022年度は地域や事業所における人材育成や多職種等とのネットワークづくりや社会資源の開発、地域づくりの役割を担う主任ケアマネジャーの資格取得を支援し、現在では9名中5名が主任ケアマネジャー資格を有し、実践的スキルの習得を目指したOJTの実践を推進、多種多様なニーズに対応できるケアマネジャーが所属する事業所となっている。

また利用者のQOL向上の為、生産性向上、業務効率化、業務改善に多く取り組んだ1年であった。帳票類の見直しによる作成時間削減や、事業所内の整理整頓や日常の動線を意識した職場環境の整備をおこなう事で、業務にかかるストレス軽減を実感し、残業時間の減少につながった。

ケアプラン作成をおこなった利用者を保険者別で分けると、羽島郡(笠松町40%、岐南町12%)が全体の半数を超え、続いて岐阜市28%、羽島市15%、各務原市2%、一宮市2%の結果となった。昨年と比べると、事業所の所在する笠松町の利用者が増加傾向にあり、当ケアプランセンターがますます地域から必要とされる存在になっていると確信できる(表1)。

また(表2)にあるように、利用者数は年間を通して極端な増減なく推移した。これは標準担当件数35件を管理し、各ケアマネジャーにかかる業

務負担のストレスが過度にならないように意識し、気持ちにゆとりを持って、利用者の本質である対人援助に力を発揮できるよう取り組んだ結果である。

近年は主治医や看護師、入退院センター等の働きかけにより、急性期病棟から末期がん患者等が直接退院して、住み慣れた自宅で看取る支援や医療依存度の高い利用者を在宅医や訪問看護と連携を取りながら在宅療養へ移行し継続的に支援する状況が増加している。当事業所は病院併設による居宅介護支援事業所として迅速に対応することでその役割を担っている。

【今後の展望】

当事業所の重点課題は、以下のとおりである。

- 法人内施設との情報ネットワークによる連携システム構築と多職種間のコミュニケーション強化
- IT活用によるケアマネジメント業務の効率化によるスタッフの負担軽減
- サービス提供地域の拡大
- 他医療機関との在宅支援連携の拡充
- ケアマネジメントの質を高めるアセスメントの実践
- 地域ケア会議への積極的な参加等、行政や他事業所との連携

地域の医療機関や介護施設と連携して高齢者の方々が健康管理やケアを継続的に受ける事ができ、最期まで住み慣れた地域で自分らしく過ごせる様、ケアマネジメント能力向上に努めたい。医療機関併設の居宅介護支援事業所として、医療依存度の高い方や看取り期におけるニーズに迅速に対応できる人材の育成を計画的に実践する。

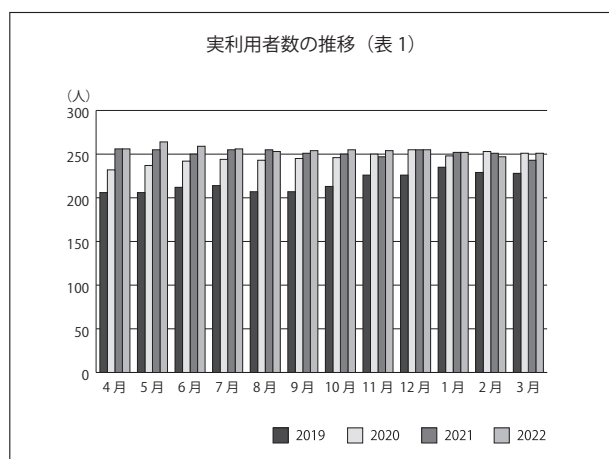
また、同一法人内の介護サービススタッフとの共同研修等、事業所を超えた取組で介護チーム一丸となって、地域に対して、医療と介護がともに高度なサービスの提供により地域貢献を果たしていきたいと考える。さらに、それをマニュアル作成等、可視化への取組により、業務の適正化や正確性向上につながったり、指導要領の明確化で各自が目指すべき姿を描きやすくなり、モチベーションアップにつなげていきたいと考える。

今後も羽島郡(笠松町、岐南町)を中心に、病院の医療圏域を意識した活動で高齢者の在宅支援を

展開していきたい。

さらに増加している多様化・複雑化した課題（ニーズ）への対応・適切な支援を行う為、高齢者分野に関わらず、障害等福祉の各分野における相談支援事業者との協力、情報共有、連携できる環境の整備をし、利用者の日常生活全般を支援するサービスが包括的に提供されるように努める。

まつなみケアプランセンターは、利用者が住み慣れた地域の中で、誰もが安心して暮らすことができる「地域共生社会」実現の一端を担う事業所を目指していきたい。



保険者別利用割合（表 2）

	2021 年度	2022 年度
保険者	割合（％）	割合（％）
笠松町	37%	40%
岐南町	15%	12%
岐阜市	27%	28%
各務原市	1%	2%
羽島市	16%	15%
一宮市	3%	2%
その他	1%	1%
合計	100%	100%

〔文責：足立法子〕

まつなみリサーチパーク (MRP)

【人員体制】

- 所長 1名
- ・研究部 常勤研究員 2名
非常勤研究員 1名
- ・事務部 1名

【概要】

まつなみリサーチパーク研究部では、医療の質を維持しつつ、医療費の削減・適正化をめざし、日本の医療費を圧迫している要因に対して、具体的な解消案（新しいアイデアによる時代に即した医療）を企業等に提案する中で、新たな事業開発をめざしております。今年度も、様々なプロジェクトに対して事業化の可能性について検討しました。

その他の取り組みとしては、松波総合病院柔道部の選手達が「いかに効率よく、試合に勝つための身体づくりをするか?」「いかに長く、現役選手として活躍しつづけるか?」をテーマに指導・臨床研究を行いました。

【取り組み】

I. 昨年度より継続して行っている研究及び事業

- ①「インナーシャントソックによる消化管吸収抑制法」の開発
- ②「いつでもウォッチ[®]（遠隔医療機器）を使用した在宅患者管理システム」の開発
- ③「麦わら帽子型（どこでも採血・検査一体型）キット」の開発
- ④「健康情報（健診・食・ストレス 他 データ）付き経時的血清保存事業」の運用
- ⑤「薬内包フィルム（レスキューフィルム）」の開発
- ⑥「ホースセラピー」運用の検討
- ⑦「羽島市・羽島郡医師会 包括的個人健康情報管理プログラム」の開発

II. 新たな研究・事業開発の検討

- ①食・運動・心を変えよう（良い事は何でもやろう）プロジェクト
 - ・ホテルと共同で低カロリーメニューの開発
- ②美容関係プロジェクト
 - ・貼付するタイプの化粧品の開発
 - ・足裏貼り付けヒール「ヌーソール」の開発
 - ・美容業界と医療業界とが共同で行うアプリの開発

③介助者の負担軽減プロジェクト

- ・患者体位変換・移乗用マットの開発
- ・次世代型ベッドの開発

III. 松波総合病院柔道部員へのメディカルストレングス&コンディショニング指導

選手の体組成面・体力面・メンタル面等、全てをデータで把握することで、個々の身体の変化にいち早く気づき、最善の対策をとりました。また、試合に向け、勝つ為に最適な状況にもっていけるようアドバイスしました。個々に合わせたテーラーメイドの指導をすることを目指しました。

IV. アスリートを対象とした臨床研究

学生アスリートと松波総合病院柔道部員を対象とした研究を行いました。

【2022年度実績】

I. 国内特許取得

「生体情報測定装置」特許第7091482号、2022年6月17日

II. 発表

第9回柔道医科学研究会、2022年7月30日～31日

一般演題（口演）「松波総合病院が行う柔道選手へのサポート例及び研究のご紹介」

III. 講演会の開催

①第2回医学と柔道を学ぶ会 2022年6月26日（日）
柔道の絞め技による意識消失（締め落ち）と活法に関する生理学的研究

講演者：二村雄次

②肥満治療講演会 2022年7月2日（土）

・イシの力で行う正しいダイエット

講演者：松波英寿理事長

・「理学療法士による運動指導」

③肥満治療講演会 2023年2月4日（土）

・イシの力で行う正しいダイエット

講演者：松波英寿理事長

・「管理栄養士による肥満対策指導」

〔文責：吉川智美〕